

第7章 河川空間の利用状況

7-1 河川の利用状況

平成12年度河川水辺の国勢調査(河川空間利用実態調査)結果によると、山国川の年間推定利用者数は約14万人であり、河川利用は比較的、盛んな河川である。しかし、前回(平成9年)の調査時に比べると、利用者は減少している。ただし、流域内人口が約3万6千人であることから見て、流域内人口に対する河川利用者数は多く、比較的多くの利用者が訪れていることが分かる。

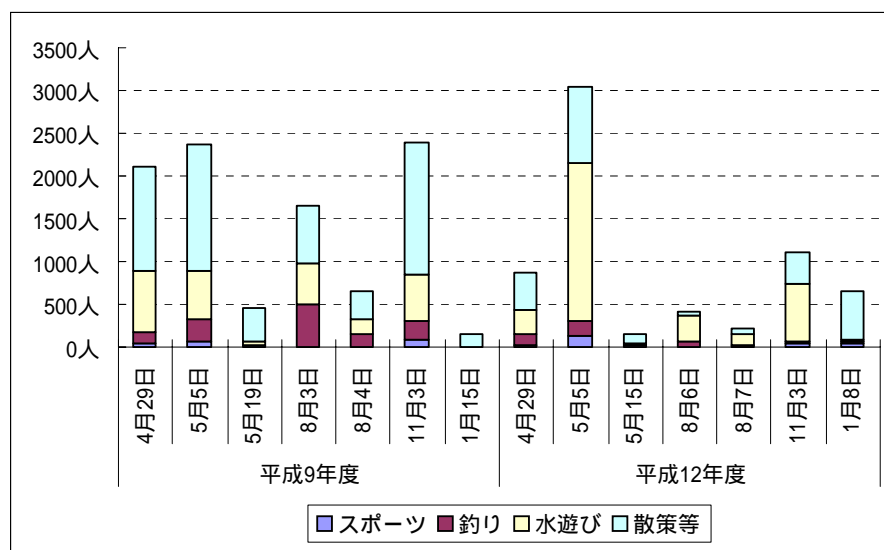


図 7-1 各調査日の利用者数

表 7-1 年間河川空間利用状況

区分	項目	年間推定値(千人)		利用状況の割合	
		H9年度	H12年度	平成9年度	平成12年度
利用形態別	スポーツ	6	8		
	釣り	28	7		
	水遊び	48	57		
	散策等	165	68		
	合計	247	140		
利用場所別	水面	17	20		
	水際	59	44		
	高水敷	58	42		
	堤防	113	34		
	合計	247	140		

出典：河川水辺の国勢調査 平成9年度 河川空間利用実態調査(山国川) 報告書
 ：河川水辺の国勢調査 平成12年度 河川空間利用実態調査(山国川) 報告書

図 7-1 から、河川の利用時期を見ると、ゴールデンウィークにおける潮干狩り客等の利用者が多く、冬期においても利用形態は異なるものの、利用者は訪れている。

河川利用は上流から下流まで自然利用が主として行われている。また、河川沿いには旧耶馬溪鉄道きゅうやまぎやうてつどうの軌道跡地を利用したサイクリングロードが整備され、水辺へのアクセスとして多くの人に利用されている。

河川利用形態は年間を通じて水遊びや散策が多く、春から夏にかけては河口部での潮干狩などが行われる。また、アユ釣り場としても人気があり、シーズンには中流から上流にかけて多くの釣り客を集めている。

さらに、耶馬溪ダム湖やまぎやうではウェイクボードや水上スキーに利用されており、夏場には「ダム湖畔祭り」で花火大会などが開催されている。

7-2 河川敷の利用状況

山国川は高水敷の面積が約 80.6ha、水面の面積が約 229.4ha である。また、高水敷面積に対する河川利用施設の占有面積の割合は約 3%程度である(『平成 12 年度河川空間利用実態調査(山国川)報告書』より)。

山国川の代表的な高水敷として、下流部では吉富町の幸子地区、中流部では本耶馬溪町の青地区や耶馬溪町の柿坂地区等がある。

幸子地区の高水敷は、スポーツ公園として整備され一般市民に親しまれている。青地区の高水敷は、河川公園、柿坂地区の高水敷はイベント広場として整備され、観光客や一般市民に親しまれている。



写真 7-1 潮干狩り(河口付近)

春から初夏にかけて、干潮時には、家族連れ等の潮干狩り客により賑わっている。



写真 7-2



写真 7-3

幸子地区の高水敷(河口から 2.0~3.0km 地点の左岸)

テニスコートやローラースケート場があり、キャンプ場としても利用されている。



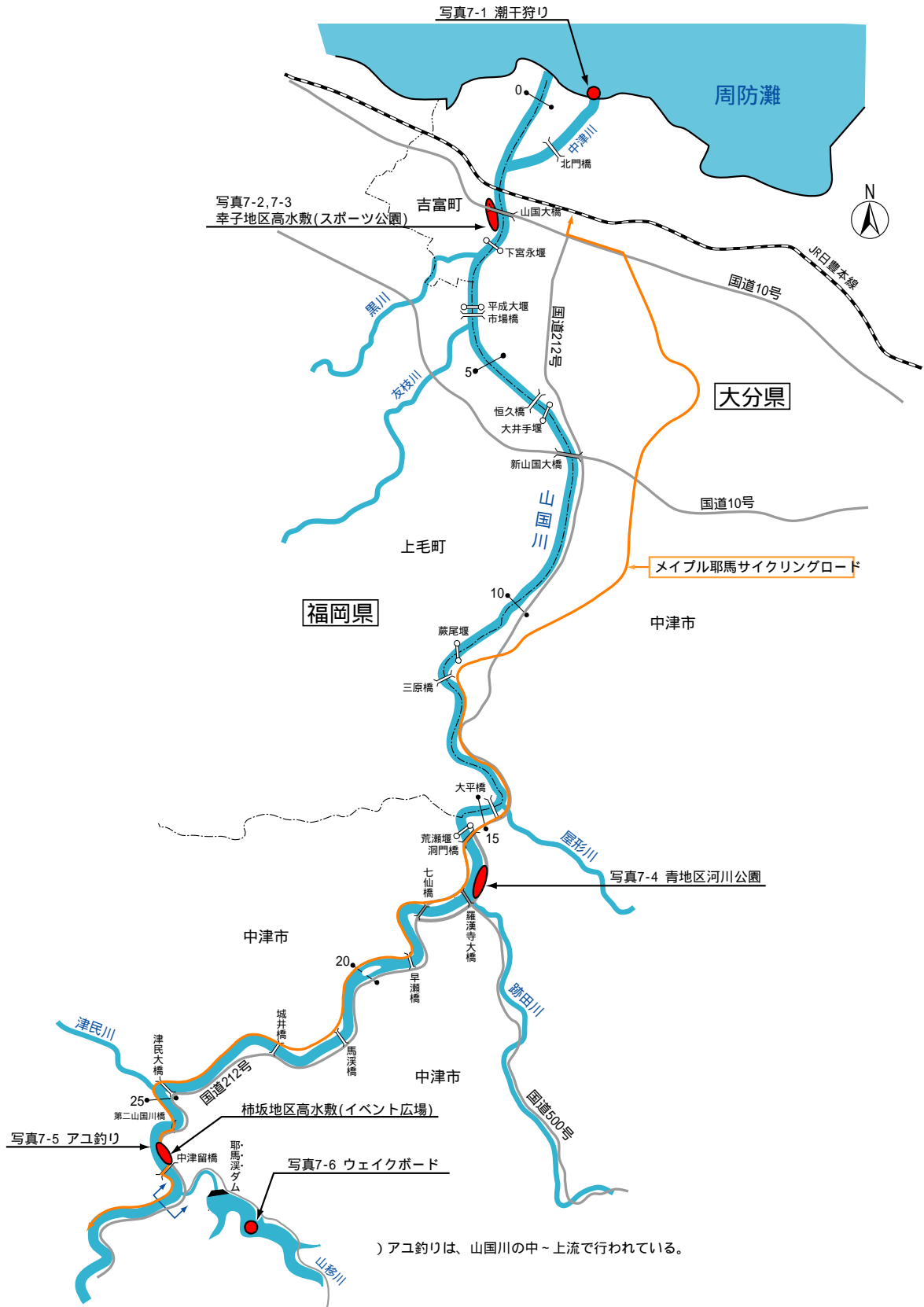
写真 7-4 青地区の高水敷(河口から約 16.4km 地点の右岸)
河川公園として整備され、ボート遊び、水遊び等に広く利用されている。



写真 7-5 アユ釣り(河口より 26km ~ 27km 地点)
山国川は、アユ釣り場として人気があり、シーズン(5/20 ~ 11/30)には、中流から上流にかけて釣り客が多い。



写真 7-6 ウェイクボード(耶馬溪ダム)
耶馬溪ダム内に設けられた耶馬溪アクアパークでウェイクボード等が楽しまれている。



アユ釣りは、山国川の中～上流で行われている。

図 7-2 河川利用位置図